

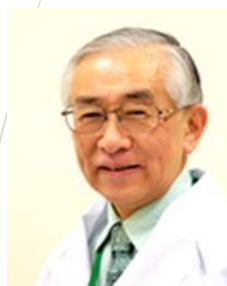
# 東都文京



2023年1月1日 第32号

発行：医療法人社団大坪会  
東都文京病院広報委員会  
〒113-0034  
東京都文京区湯島3-5-7  
TEL: 03-3831-2181

## ～2023年年頭のご挨拶～



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお  
願い申し上げます。

昨年を象徴する漢字は「戦」でした。2月に始まり 今も続く  
ロシアの侵略に対するウクライナの戦い、パンデミック宣言  
から3年になり第8波を迎えているコロナ禍の戦い、日本チー  
ムが健闘したサッカーワールドカップでの熱戦、地球温暖化を背景に年末か  
ら断続的に襲っている北日本・北陸を中心とする30年ぶりの大雪など拡大す  
る自然災害との戦い、等が挙げられます。スポーツを除けば、いずれも戦い  
の収束・終結と平穏な日々が望まれます。

さて、東都文京病院は9回目の正月を迎えました。地域医療ネットワークの  
中で、二次医療機関として地域の皆様の健康を守り、健康長寿の延伸を支援  
する役割を果たしてまいりました。昨年4月には窪田敬一院長が就任、内科・  
外科の人員補強を行い、10月にはがん治療強化のためハイパーサーミアシス  
テム(温熱療法)を導入いたしました。また一方、東京都の要請に応じて、  
COVID-19中等症の入院治療、発熱外来、ワクチン接種等に努めてまいりまし  
たが、第7波では、スタッフの感染と離職により人員が不足し、短期間ではあ  
りますが入院制限を行い、皆さまにご迷惑をおかけしました。COVID-19感染  
の影響で病院財務は厳しい状況にありますが、院内感染の防止、個々のス  
タッフの感染防止を徹底し、病院スタッフ一丸となって、この苦境を乗り切  
りたいと思います。

また、懸案の新棟建設は、オリンピックやCOVID-19対策で先送りを余儀な  
くされていましたが、各部門のヒヤリングを終えて、今年度末には基本構想  
に基づいて計画を取りまとめ、基本設計の段階に入る予定です。従来 of 病院  
建築概念に加えて、感染対策、災害対策、地球温暖化への対応(カーボン  
ニュートラル)等、多くの新しいニーズへの対応を考慮いたします。皆様のご  
支援とご提案をお願いいたします。

(つづき)

(つづき)

末筆になりますが、皆様のご健康とご多幸とともに、ウクライナに平和が訪れますことを祈念いたします。

2023年元旦

東都文京病院統括院長 杉本充弘

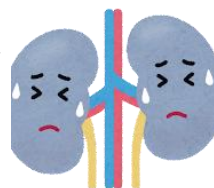
文京コラム

## 慢性腎臓病（CKD）とは？

腎臓は、背中側にある、左右2個あるこぶし大の臓器です。血液をろ過してきれいにし、余分なものを尿として排泄します。

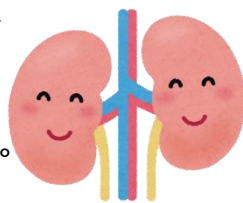
3か月以上にわたり、腎臓の障害（蛋白尿など）、もしくはGFR（糸球体ろ過量）60 mL/分/1.73 m<sup>2</sup>未満の腎機能低下が続くことを慢性腎臓病（CKD）といいます。現在、日本では、成人の8人に1人、約1,300万人がCKDと推計されており、新たな国民病とも呼ばれています。

なぜCKDが重要視されているのでしょうか？CKDは1つの病気の名前ではなく、腎臓の働きが徐々に低下していくさまざまな腎臓病の総称です。CKDの原因やその悪化には、糖尿病・高血圧・喫煙などの生活習慣が深く関わっています。CKDが進行すると腎不全となり、透析などが必要となることがあります。また、CKDの患者さんは、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患発症の危険性が、正常腎機能の方より高いことが知られています。CKDは腎臓だけの問題ではなく、全身に関わる問題として捉える必要があるのです。



予防のために普段から気を付けるべきことは、減塩・禁煙・脱水の回避・かかりつけ医への定期受診・健診受診などです。メタボリックシンドロームや肥満がある場合も注意が必要です。

CKDの早期発見には、尿検査と、血清クレアチニン測定（採血検査）によるeGFR算出が必要です。かかりつけ医の受診や健診で定期的に経過をみていきましょう。当院には腎臓内科専門医が多く在籍しています。かかりつけ医との併診も行っております。腎臓でお困りのことがあれば、お気軽に腎臓内科外来をご受診ください。



東都文京病院  
腎臓内科 川端 千晶

詳しくは病院ホームページもご覧ください。

<https://www.tohtobunkyo-hp.com>